

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	生徒一人一人の夢や希望の実現に向け、「自立する心」、「探究する心」、「調和する心」を育む教育を展開し、家庭や地域社会と連携・協働しながら、郷土に対する愛着と誇りを持ち、社会の一員としての自覚と「社会を生きぬく力・切り拓く力」を身に付けた人間の育成を図る。
(2) 現状と課題	不登校や発達障がい、就労や育児など、様々な課題を抱えた生徒が、通信制なら通えるかもしれないという希望を胸に入学してくる。将来社会の一員として生き抜く力を身に付けるため、生徒たちが主体的に学習し、一人一人が自分のペースで安心して学習できる環境を提供することが課題である。
(3) 重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 キャリア教育の充実
(4) 結果の公表	1 「学校評価結果報告書」を学校ホームページにおいて公表する。 2 「学校評価のための保護者アンケート」の集計結果・対応を保護者・生徒に送付する。

学校整理番号	52
学 校 名	青森県立尾上総合高等学校
通信制の課程	
自己評価実施日	令和 7 年 1 月 10 日(金)
学校関係者評価実施日	令和 7 年 2 月 4 日(火)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校運営協議会委員 7名 いじめ防止専門委員 1名

自 己 評 価					学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	確かな学力の育成	①生徒の興味・関心に応じた幅広い教育課程を計画し運用する。 ②生徒の学習状況について、確実に情報共有を行う。 ③自学自習に取り組む生徒を育成するため、レポート指導等を充実させる。	各科目の魅力をわかりやすく紹介する案内を新たに作成し科目選択の際に活用するなど、生徒の興味・関心に応じた教育課程を運用することができた。 個々の出席状況やレポート提出の状況についての情報交換を欠かさず行い時には協議することで、複雑な履修計画にも対応することができた。 今年度からレポートは全て解答したうえで提出することとしたため、スクーリングへの集中力や調べ学習など、学習に向かう姿勢が改善された。	B	・今年度取り組んだことを具体的に評価しており、とてもよい。 ・具体的方策については、焦点化する必要もある。 ・評価項目について、経年変化をみとる形にするのもよい。	生徒個々の特性に配慮した指導について、全教員が共通認識を持ちながら授業改善を引き続き行う。レポートの改善（主体的に学習に取り組む態度の評価、解説動画との連動等）に取り組む。 選択幅のある教育課程の運用のために、各教科最低1名の常勤教員の必要性を含めた定数変更について働きかけていきたい。	
2	豊かな人間性の育成	①挨拶の励行といじめ行為の未然防止。 ②生徒会活動の活性化。 ③生徒理解に資するため、情報共有の徹底と行事への積極的参加の呼びかけ。	学校生活の様々な場面での教職員の積極的な呼びかけにより、生徒の自発的な挨拶が増えている。各種アンケートや面談などからいじめの発見及び認知はなかった。文化祭において、生徒会の企画を参加生徒全員で盛り上げる様子が見られた。各行事をとおして生徒同士のコミュニケーションが深まる場面が多々あった。	B	・生徒たちの状況をよく把握し、いじめ防止のために懇切丁寧な対応を行っている。 ・アンケートの結果から、生徒がちよっとしたこと書きやすいアンケートであることがわかる。	生徒指導上の課題（問題行動等）を抱える生徒が増加している。学校生活における基本的なルールについて年度始めから徹底し、機会あるごとに指導する。 学校行事や特別活動の魅力度を高めて積極的参加を促し、生徒同士のコミュニケーション向上と教師による生徒理解の深化に努める。	
3	キャリア教育の充実	①ICT活用、進路面談の活性化、適切な情報提供を通じて主体的な進路選択を支援する。 ②外部機関と連携し、生徒個々の進路指導を充実させる。	直近3年間、学校を介して就職する生徒はなかったが、今年度は就職希望者が多く、面談、応募手続のサポート、模擬面接、筆記試験対策を行い、6名の内定につながった。ジョブカフェやサポートステーションと連携し、職業選択やライフプランを考えさせることができた。	B	・進路指導を含め、生徒のためによく力を尽くしている。 ・担任の先生がわかりやすく伝える対話的な指導が今後も必要である。	「進路の手引」「受験の手引」の生徒への配付時期を今年度より早め、早期の意識づけを図る。保護者会や進路講演会をとおして、保護者への情報提供を充実させ、家庭での対話を深めてもらう。外部講師を活用し、進路未決定者への働きかけを行う。	

(11) 総括	通信制で学ぶ生徒の増加（在籍数R3 88名→R6 168名）、多様化（不登校経験者、様々な課題を抱えた生徒、進路変更による他校からの転編入生等）により、生徒一人ひとりへのきめ細かい対応がより一層求められている。生徒の抱える課題を把握し、卒業までの支援、進路未決定者の減少に向けて、丁寧な指導を積み重ねていく必要がある。今後も、生徒・保護者・地域の方々の意見を参考にして、関係機関・SSW・SLSとの連携を深め、教育活動の改善に努めていきたい。
---------	---